

この度は **TRUSCO** 製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

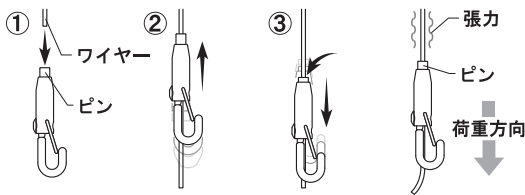
取扱方法

ワイヤーグリップの取扱方法

対象品番：TAK-14, TAD-1, TAT-5, TBS-20RP, TBS-22, TBS-25, TBS-30B, TSF-20RP, TSF-30B, TAF3-1010, TAF3-1020

ワイヤーグリップ機構をもつ製品の基本的な取扱方法です。製品には使用する向きがあります。
ワイヤーに張力が加わる方向にピンが向くように取付けてください。

※ 各製品ごとの個別の使用方法については次頁参照。



- ① ピンにワイヤーを差し込むだけでグリップします。ワイヤーは金具を貫通するまで差し込んでください。
- ② ピンのある方向には金具は自由に動かさず。
- ③ ピンの反対方向に動かす場合や、ワイヤーを抜く場合にはピンを押しながら動かしてください。ピンを離すとワイヤーは再びグリップされます。

※ ピンの向きは必ずワイヤーに張力が加わる方向です。

対象品番：TAK-14

TAD-1

TAT-5

TBS-20RP

TBS-22

TBS-25

TBS-30B

TSF-20RP

TSF-30B

TAF3-1010

TAF3-1020

TCE-10

許容荷重

製品とワイヤーを組み合わせた許容荷重は下表をご参照の上、製品ごとに設定された適合ワイヤー径を厳守してご使用ください。また、吊り下げる重量を確認し、各規格・標準や指針などに適合するように製品をご選定ください。ワイヤーはSUS304、7×7ヨリを使用してください。

ワイヤー線径(mm)		φ0.6	φ0.8	φ1.0	φ1.2	φ1.5	φ2.0
許容荷重(kg)		3	5	8	10	30	50
製品名	TAK-14	○	○	○	○	—	—
	TAD-1 , TAT-5	—	—	○	○	—	—
	TBS-22 , TBS-20RP	—	—	○	○	○	—
	TBS-25 , TBS-30B	—	—	—	—	○	○
	TSF-20RP	—	—	—	—	○	○
	TSF-30B	—	—	—	—	○	○
	TAF3-1010, TAF3-1020 ワイヤーとのセット製品です	—	—	○	—	—	—
TCE-10 ※TCE-10に荷重はかけられません	※○	※○	※○	※○	※○	—	

警告

- 必ず許容荷重以下でご使用ください。
- 静止状態で使用してください。
- 許容荷重には余裕を持って製品をご選定ください。

注意

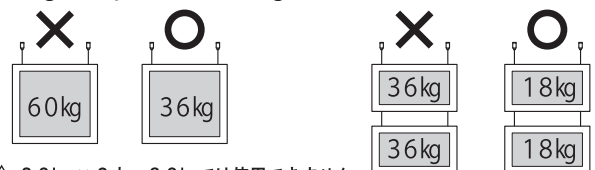
- 許容荷重はトラスコPB製品或いは同等の破断荷重の製品との組み合わせでの参考値です。
- 粗悪なワイヤーを使用した場合には、強度が大幅に低下する場合があります。落下などの重大な事故の原因となる場合があります。
- ナイロン等で被覆されているワイヤーには使用できません。
- 一部製品の許容荷重はワイヤー線径ごとの許容荷重とは異なります。複数の製品を組合わせてご使用になる場合は、許容荷重の低い数値を最大許容荷重としてください。

○ = 適合します

- 許容荷重はワイヤー1本あたりの値です。1本のワイヤーに金具を複数取付けた場合でも全体の荷重の合計が許容荷重を超えないようにご使用ください。
- 複数本のワイヤーで吊り下げる場合、1本のワイヤーに荷重が集中しないよう、各ワイヤーに均等に荷重が加わるようにご使用ください。
- 製品ごとに設定された適合ワイヤー径より細いワイヤーは使用しないでください。
- 1つの対象物を複数のワイヤーで吊り下げる(2点~4点吊り)場合には、ワイヤー1本あたりの許容荷重を合算し、その値の60%にした値を安全にご使用になる為の目安としてご検討ください(右図参照)。また、5点吊り以上の場合は、4点吊りと同じ許容荷重でご使用ください。

■ ワイヤー線径の許容荷重×本数×60%
(参考)φ1.5ワイヤー、2点吊りの許容荷重
 $30\text{kg} \times 2\text{本} \times 0.6 = 36\text{kg}$

金具を増やした場合も荷重は天井面の金具に集中します。重量の合計が36kg以内になるようご使用ください。

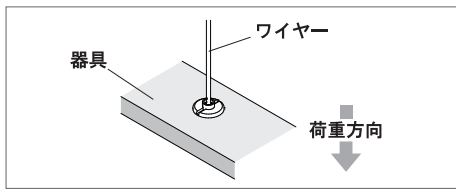
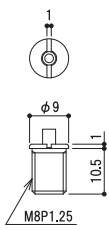


弊社では、常により良い製品を目指し、仕様・デザイン・生産技術等、あらゆる面でさまざまな改良を積み重ねております。つきましては、この取扱説明書に記載している仕様は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

各製品ごとの使用方法

TAK-14

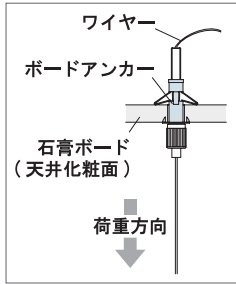
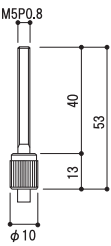
適合ワイヤー径: $\phi 0.6$, $\phi 0.8$, $\phi 1.0$, $\phi 1.2$



- ・M8のタップ加工をした器具に直接取付けられます。
- ・取り付けにはマイナスドライバーを使用してください。通常のボルトやナットの締付トルクで器具へ取付けた場合、製品破損の恐れがあります。

TAT-5

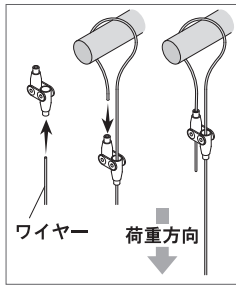
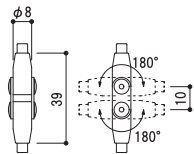
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$



- ・M5のボードアンカーに取付けてください。
- ・余分なワイヤーを天井裏に送り込めます。
- ・TAT-5とボードアンカーの許容荷重を比較し、低い方の許容荷重に合わせてご使用ください。

TBS-25

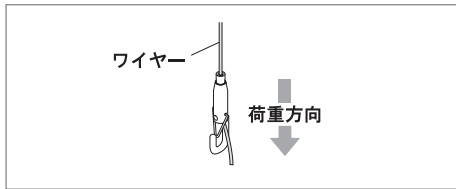
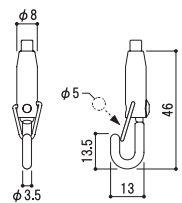
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$, $\phi 1.5$



- ・梁や柱にワイヤーを回してループが作れます。
- ・ループの径が自由に調整できるので、イベントブースなどのワイヤー吊りや転倒防止に利用できます。

TBS-20RP

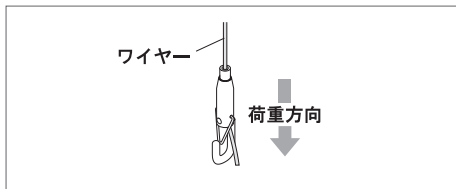
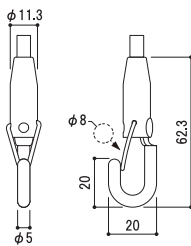
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$, $\phi 1.5$



- ・一本のワイヤーに複数個取付けられます。(荷重制限にご注意ください。)
- ・フックには $\phi 5$ までのヒモやロッドが掛けられます。

TSF-20RP

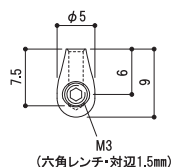
適合ワイヤー径: $\phi 1.5$, $\phi 2.0$



- ・一本のワイヤーに複数個取付けられます。(荷重制限にご注意ください。)
- ・フックには $\phi 8$ までのヒモやロッドが掛けられます。

CE-10

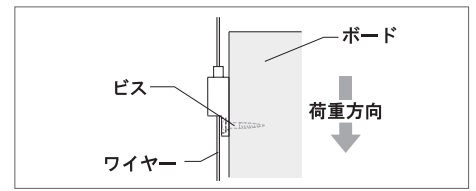
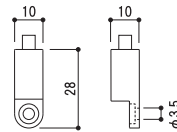
適合ワイヤー径: $\phi 0.6$, $\phi 0.8$, $\phi 1.0$, $\phi 1.2$, $\phi 1.5$



- ・ワイヤー端部の保護と、展示品が金具ごとワイヤーから抜き取られることを防止します。
- ※この製品にグリップ機構はありません。荷重をかける使い方はしないでください。

TAD-1

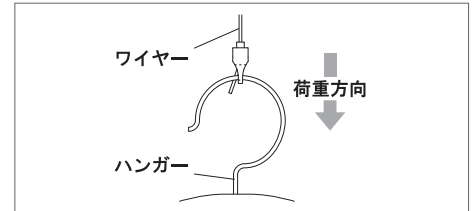
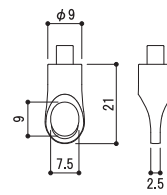
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$



- ・ボードの側面にビス止めて取付けます。
- ・必ず強度が確保できる木部にビス止めしてください。
- ・ビスは呼び径3のナベタッピングビス、または呼び径3.5の丸木ネジをご使用ください。

TBS-22

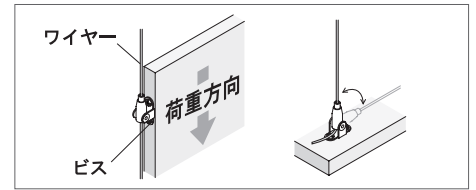
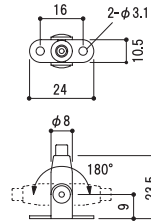
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$, $\phi 1.5$



- ・ハンガーを美しく吊り下げます。リングにハンガーを掛けてお使いください。

TBS-30B

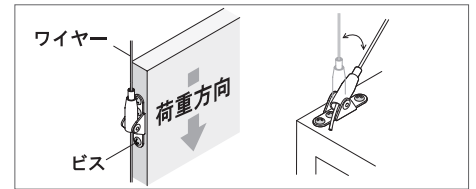
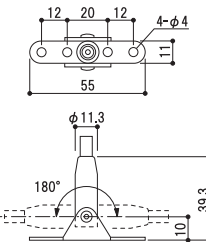
適合ワイヤー径: $\phi 1.0$, $\phi 1.2$, $\phi 1.5$



- ・ボードの側面や上面にビス止めて取付けます。
- ・必ず強度が確保できる木部にビス止めしてください。
- ・ビスは呼び径2.6のナベタッピングビス、または呼び径2.7の丸木ネジをご使用ください。

TSF-30B

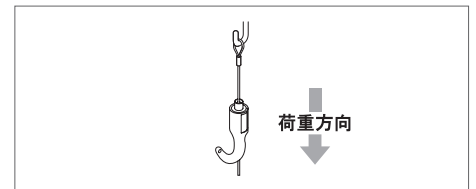
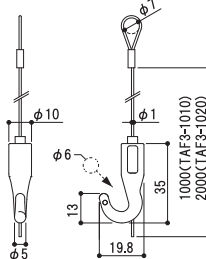
適合ワイヤー径: $\phi 1.5$, $\phi 2.0$



- ・ボードの側面や棚の上面にビス止めて取付けます。
- ・必ず強度が確保できる木部にビス止めしてください。
- ・ビスは呼び径3.5のナベタッピングビス、または呼び径3.8の丸木ネジをご使用ください。

TAF3-1010, TAF3-1020

$\phi 1.0$ ワイヤースセット



- ・ワイヤーのループをフック等に掛けてご使用ください。
- ・フックには $\phi 6$ までのヒモやロッドが掛けられます。

注意事項

⚠ 警告

- ・繰り返し荷重や回転力が加わるなど、静止荷重以外の状態ではご使用になれません。
- ・製品を取付ける箇所の強度を確認し、荷重に耐えられるよう適切なサイズのネジやアンカーを使用して確実に取付けてください。
- ・製品はワイヤーに張力が加わる方向にピンが来るように取付けてください(図1)。逆方向に向けて取付けた状態ではワイヤーをグリップできないため落下し、大変危険です。
- ・ワイヤーが金具に十分挿入されていることを荷重をかける前に確認してください(図2)。挿入が不十分な場合、落下によるケガや破損の原因となります。
- ・金具には適合するワイヤー径より細いワイヤーは使用しないでください。ワイヤーが抜ける場合があります大変危険です。
- ・製品の分解や改造は絶対にお止めください。
- ・ワイヤーには折れ・素線の切断・潰れなど異常がないことをご確認の上ご使用ください(図3)。異常があった場合は使用を中止し、新しいワイヤーにお取り替えください。
- ・製品を故意に強く引張ったり、揺らしたりすると吊り元が破損したり展示物が落下する恐れがあり大変危険です(図4)。お子様が遊んだりしないようご注意ください。
- ・人が乗ったり、ぶら下がるなどの人命に関わる用途には絶対に使用しないでください(図4)。
- ・揺れや荷重の不均等により、1箇所ワイヤーや金具に思わぬ負荷が集中する場合があります。許容荷重には余裕を持って製品をご選定、ご使用ください(図5)。
- ・許容荷重を超えて使用した金具の再使用はお止めください。金具内部の破損などの原因で十分な強度を得られなくなっている場合があります大変危険です。

⚠ 注意

製品選定・施工上のご注意

- ・吊り下げ作業は事故防止のため、必ず2名以上で行ってください(図6)。
- ・安全のため、必ず指定のワイヤー製品(SUS304・7×7ヨリ)をご使用ください。他社のワイヤー製品を使用した場合、錆や強度低下の原因となる場合があります。
- ・ワイヤーが吊る物・壁・柱など建築構造物に接触しないようにご使用ください。ワイヤーに傷がつき強度低下の原因となる場合があります。直接触れないように、ワイヤーの保護をお願いします。
- ・ワイヤーに強い張力が加わっている状態では人が揺らしたり、ぶつかった時の衝撃などで許容荷重を超えてしまう場合があります。人が手を触れる場所でご使用になる際は、危険防止のため許容荷重には余裕を持って製品をご選定いただけるようお願いいたします。
- ・展示物を中空に吊り下げる場合、揺れた時に周囲にぶつかるなどして壁面や展示物が破損する事があります。金具の選定・施工時には展示物の周囲に十分な間隔が取れるよう、余裕を持った配置をお願いいたします。
- ・先端がほつれたワイヤーは指先などに素線が刺さる場合がありますので、お取扱いには十分ご注意ください(図7)。また、先端がほつれた状態では器具に挿入できなくなりますので、新しいワイヤーにお取替えいただくか、ワイヤーの先端をカットしてご使用ください。
- ・お客様ご自身でカットしたワイヤーを使用する場合、ほつれ防止のためワイヤーの先端にハンダ処理をしてください。
- ・吊っている対象物を回転させるなど、ワイヤーに常にねじれ力が加わる状態でのご使用はお止めください(図8)。ワイヤーが金具から抜ける場合があります大変危険です。

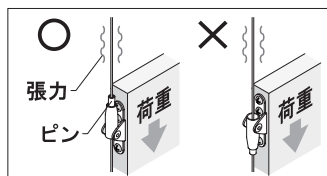


図1

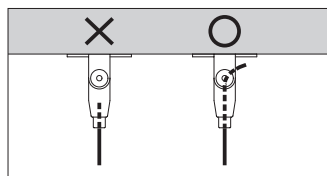


図2

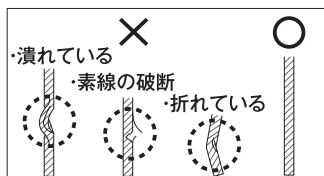


図3

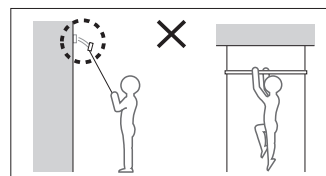


図4

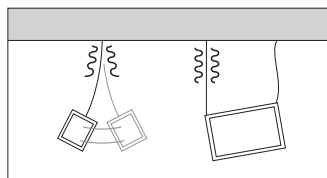


図5

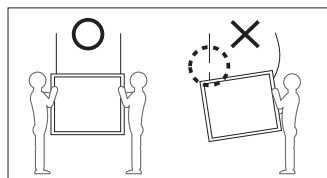


図6

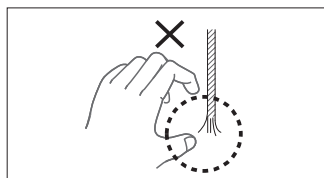


図7

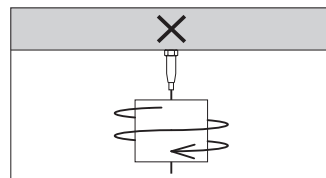


図8

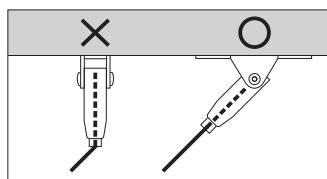


図9

⚠ 使用上のご注意

- ・ワイヤーを張る方向と金具の方向が一直線になるようにして使用してください(図9)。
- ・素手でワイヤーを強く引っ張らないでください。ケガの原因になります。
- ・エクステリア用以外の製品は必ず屋内でご使用ください。
- ・Sタイプ - ストッパーキャップ型の金具を使用する場合、ストッパーキャップは必ず締付けてご使用ください。
- ・取付けた棚やパイプに商品などを載せると、重量による伸び等のためワイヤーの張りがゆるむことがあります。その場合、再度床側の金具でワイヤーを張り直してゆるみを取ってください。
- ・施工時に使用前の金具内部にワイヤーの切りクズや塵などが詰まったり、永年のご使用により内部にホコリが溜まるなどの要因により、金具がスムーズに動かなくなる場合があります。その場合、使用を中止し新しい金具への交換をお願いします。
- ・カタログに記載された各製品の使用例をご参照の上ご使用ください。また、使用方法についてご不明な点がございましたら販売元までお問い合わせください。
- ・ご使用に際しては必ずお客様にて事前に仕様確認を行い、使用目的に適合するかどうかをご確認ください。